

都市内湾域に再生された浅場・干潟の環境モニタリング

中瀬 浩太¹⁾, 金山 進²⁾, 木村 賢史³⁾, 山本 英司⁴⁾

Environmental Monitoring of the Shoal and Tidal Flat Reproduced by City Closed Water Area

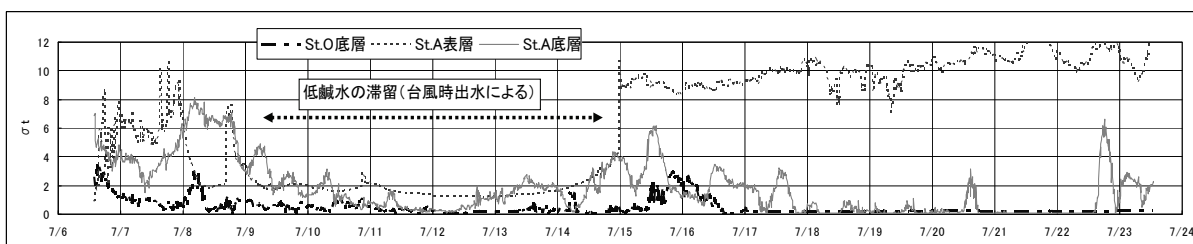
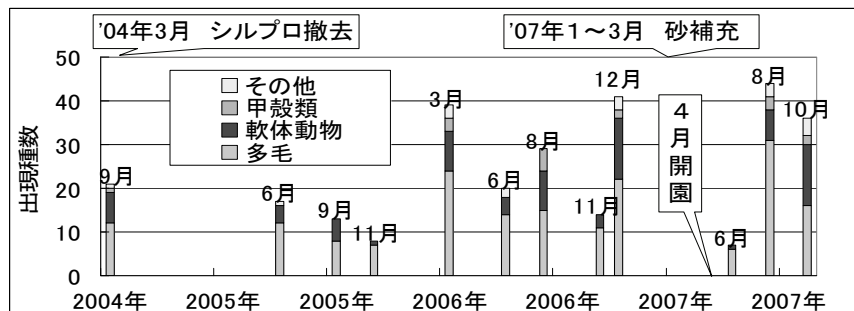
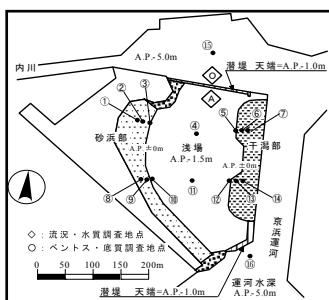
Kota Nakase¹⁾, Susumu Kanayama²⁾, Kenshi Kimura³⁾ and Hideshi Yamamoto⁴⁾

■ 要 旨 ■

東京都大田区の「大森ふるさとの浜辺公園」は京浜運河低利用水域に 1.2ha の海浜, 1.0ha の干潟, 4.6ha の浅場を再生し, 2007 年 4 月に開園した。ここでは施工前より継続的なベントス・底質・水質調査を行っている。

底生生物群集は 2007 年時点で、干潟・海浜部では多毛類と二枚貝類を中心にのべ 106 種のベントスが見られ、着工前(2000 年)の 27 種と比較して大幅に増大した。砂浜部分では最大 30~40 種、干潟では 40~50 種の出現が見られる。海浜部では当初アサリ・シオフキが見られたが現在では淡水耐性が高いホンビノスガイ、ヤマトシジミがこれらに替わって優占するようになった。しかし、貧酸素や低鹹状態により生物相のリセットが起これば優占種はしばしば交代する傾向が見られる。

浅場部分の水質連続観測(2007 年 7 月)では、降雨の後に表層の低鹹状態の持続や貧酸素状態の発生が認められた。また、流速観測結果より上げ潮時の底層水の差込みと下げ潮時の表層を中心とした流出がみられ、浅場内の底層水は周辺運河域の水質に影響されやすいことが推定された。



1) 本社 環境事業部
 2) 技術研究所
 3) 東海大学海洋学部海洋生物学科
 4) 大田区南地域行政センターまちなみ整備課

* 海洋開発論文集, 第 24 卷(2008)土木学会, pp.765-770 掲載